

「他者への理解」共感

ウルトラマン50年 世代超え人気

光の国からやってきたヒーロー「ウルトラマン」がテレビに登場して50年を迎えた。3世代に親しまれ、海外にもファンは多い。時代を超えて支持される背景を探ると、さまざまな魅力とともに「他者への理解」というキーワードが浮かぶ。

売れる怪獣

「おお、ウルトラマンだー」。東京スカイツリー(東京都墨田区)の「天望回廊」で6月に始まった50年記念イベント。初日にウルトラマン、ウルトラセブンが現れると、中高年や親子連れから歓声が上がった。レトロなフットビール人形などのお土産も人気だ。

おもちゃメーカーのバンダイによると、ウ

ルトラマン関連商品の売り上げの50%以上がソフビ。1983年から9千個以上を売り上げた。同社ボーイズトイ事業部の片野良太マネジャー(39)は「戦隊シリーズなどと違い、ウルトラマンでは敵役の怪獣人形が売れる。子どもが書いた壁の落書きが怪獣になる

希望の象徴

66年7月10日。特撮番組「ウルトラマン」の放送開始1週間前に、PRイベントの公開録画がテレビで放送された。怪獣と戦うヒーローの登場に子ども



イベントでウルトラマン(右端)やウルトラセブン(左端)と記念撮影する来場者ら＝東京スカイツリー

たちは熱狂。後にこの日は「ウルトラマンの日」に定められた。

初代ウルトラマンに出演した桜井浩子さん(70)は今も米国などのイベントに招かれる。「50年前はこんなことになると思わず、感無量」と笑顔。タイや中国、台湾などでも人気で、マレーシアでは現地独自のウルトラマンも生まれた。

歴代42人目のヒーローとなる新作「ウルトラマンオーブ」(9日)からテレビ東京系など)を演出する田口清隆監督(36)は、国内外の人気には共通の背景があると語る。

「怪獣がもたらす災害は戦争や自然災害の書に戦争や自然災害の比喩であり、絶望した時にも助けてくれる希望の象徴がウルトラマン

戦いと苦悩

人間の横暴で暴れざるを得なくなった怪獣の事情なども知ったウルトラマンは、人類のために苦悩しながら戦う。ウルトラマンが送り続けるメッセージとは何か。制作する円谷プロダクションの大岡新一社長(69)は言う。「集約すると『愛』。怪獣をしつかり描き、他者を認めるからヒーローとしてのウルトラマンが際立つ。今も宗教的ないさかや戦争は絶えない。それでも違いを理解し合おうと伝え続けられ、そんな状況を変えざるもたたちが現れるかもしれない」

2016年7月14日
朝刊

①ウルトラマンが時代を超えて支持されているのは、どうしてでしょうか。

[]

②怪獣は、何の比喩として登場しているのでしょうか。

[]

③ウルトラマンが送り続けるメッセージは何でしょうか。

[]

年 組 名前